

2022年3月29日

一般社団法人電子情報技術産業協会

「第7回 JEITA ベンチャー賞」受賞6社が決定 新たに Early edge 賞を創設、ベンチャー企業との共創・連携をさらに促進へ

一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA：代表理事/会長 綱川 智 株式会社東芝 取締役会議長）は、本日、「JEITA ベンチャー賞」の受賞企業6社が決定したことを発表しました。JEITA ベンチャー賞は、電子情報技術産業の総合的な発展のみならず、経済発展に貢献しうるベンチャー企業を表彰するもので、過去には株式会社 Preferred Networks や株式会社 MUJIN、株式会社 ABEJA など気鋭のベンチャー企業、計39社が受賞しており、本年が7回目の取り組みとなります。今回も「JEITA ベンチャー賞審査委員会」（審査委員長 荒川 泰彦 東京大学 名誉教授/特任教授）が成長性（先導性）、波及性、社会性の3つの視点からベンチャー企業を審査・選考した結果、第7回 JEITA ベンチャー賞は株式会社 AiCAN、株式会社インプリム、株式会社エイシング、株式会社エスケーフライン、株式会社 otta、ポールウェーブ株式会社の6社が受賞しました。また今回から特別賞として「Early edge 賞」（市場における貢献度は未知数だが、非常に高い技術を保有し、将来、大きな成長が期待できる企業を特別賞として表彰するもの）を創設、Mantra 株式会社が受賞しました。

JEITA では現在、Society 5.0 の実現を事業指針として、CPS/IoT の社会実装による新たなビジネスの創出を目指し、各種事業を展開しています。JEITA ベンチャー賞はその取り組みの一環であり、IT・エレクトロニクス業界の発展に繋がるベンチャー企業を支援するとともに、JEITA 会員企業とスタートアップ（優良ベンチャー）企業との共創・連携・エコシステムの構築支援を目的としたものです。受賞企業が JEITA への入会を希望する場合は、「ベンチャー優遇特例制度」（JEITA ベンチャー賞を受賞した企業等が正会員として新規に入会する場合、申請により協会会費の負担を2年間免除する仕組み）を活用することができます。

今回受賞した計6社のベンチャー企業は今後、JEITA の活動に参画いただくほか、Society 5.0 の実現を目指す CPS/IoT 総合展「CEATEC」への出展や JEITA が主催するシンポジウムやセミナーなどへの登壇、さらには JEITA 会員企業との交流支援などの特典が授与されます。

JEITA はベンチャー企業との共創・連携を促進し、Society 5.0 および CPS/IoT の社会実装をさらに推進していくことで、わが国が直面する社会的課題の解決と新たなビジネスの創出を目指してまいります。今後の取り組みにつきましては、随時発表いたします。

【受賞企業の審査評価】（社名五十音順）

JEITA ベンチャー賞

株式会社 AiCAN

代表者：先光 毅士（代表取締役）

本社所在地：神奈川県川崎市高津区坂戸 3-2-1

かながわサイエンスパークイノベーションセンタービル西棟 713 号室

【審査評価】

株式会社 AiCAN は、昨今の社会課題である児童虐待の問題解決に取り組み、子どもの安全を守る業務をサポートする「AiCAN サービス」を提供している。「AiCAN サービス」は、AI を搭載した業務支援アプリケーションである「AiCAN アプリ」を顧客に提供し、ケースに関する記録、リスクアセスメント、写真等の画像データを登録・共有することで、AI がケースの傾向や今後の動向について予測し、児童相談所職員等の「判断の質向上」と「業務の効率化」を実現している。社会におけるウェルビーイングを目指す土台となる「安全・安心」への貢献が期待される。よって、JEITA ベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

株式会社インプリム

代表者：内田 太志（代表取締役）

本社所在地：東京都中野区新井 1-12-12 モデリアカラズ中野 2F

【審査評価】

株式会社インプリムは、「プリザンターUI エンジン」という独自開発のフレームワークにより、業務アプリケーションをローコード開発により簡便に作成できるプラットフォーム「プリザンター」をオープンソースで提供している。エクセルとフルカスタムの間を埋める用途を中心にして、製作結果をオープン化する条件で安く受注するというビジネスモデルにより多くの企業と提携している。業務細分化とカスタマイズの展開による DX の推進の容易性、オープンソースによる呼び水効果、低価格でのサービス提供、Web アプリの機動性など、利用しやすさという優位性が期待される。よって、JEITA ベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

株式会社エイシング

代表者：出澤 純一（代表取締役 CEO）

本社所在地：東京都港区赤坂 6-19-45 赤坂メルクビル 1F

【審査評価】

株式会社エイシングは製造業向けに機械制御に特化した独自エッジ AI アルゴリズムを研究開発し、超軽量独自 AI アルゴリズム「MST (Memory Saving Tree)」を始め、巧みなオープンクローズ戦略で主要な技術の特許化した。現在、エッジ AI の導入を検討する企業に開発環境やトレーニングプログラムを含めたライセンス提供を進めており、既に複数の大企業で導入実績を上げている。今後、製造業の生産性と品質の向上に貢献することが期待される。よって、JEITA ベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

株式会社エスケーフライン

代表者：榎木 秀志（代表取締役社長）

本社所在地：滋賀県草津市野路東 7-2-10

【審査評価】

株式会社エスケーフラインは、セラミックス粒子と紫外線硬化剤との材料調合技術と高精度レーザー制御技術を融合することにより、世界最高性のセラミック造形3Dプリント技術の事業化を実現した。スラリー化されたセラミック材料を用いることで滑らかな表面形状を実現し、また紫外線レーザーによる光造形方式を用いることで複雑かつ高精細の構造体にも対応できる。製造プロセスのカスタマイズ対応や少量多品種対応が求められる中、3Dプリンターをはじめとするデジタルファブリケーション技術は、電子部品分野、半導体関連分野、インフラ分野、生体材料分野までの幅広い分野での展開が期待される。よって、JEITA ベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

株式会社 otta

代表者：山本 文和（代表取締役社長）

本社所在地：福岡県福岡市博多区下川端町 1-1 明治通りビジネスセンター本館 6F

【審査評価】

株式会社 otta は、Bluetooth Low Energy 技術を応用した見守り端末と端末から発信される電波を受信する基地局の組み合わせで、見守り端末が基地局を通過した時間と場所の情報を見守り利用者にアプリ上で伝えるサービスを展開している。当該サービスは、安価な端末の活用や地域の企業スポンサーの協力を得ることで、予算の少ない自治体や学校への導入を安易にする、明解なビジネスモデルが特徴的である。見守り対象が子供だけでなく高齢者へも展開できるなど、将来性にも期待できる。よって、JEITA ベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

ボールウェーブ株式会社

代表者：赤尾 慎吾（代表取締役社長）

本社所在地：宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-40

東北大学連携ビジネスインキュベータ 501

【審査評価】

ボールウェーブ株式会社は、「ボール SAW」の原理を活用した微量水分計を開発しており、既に複数の販売実績を有し、半導体プロセス管理向けで海外大手ファンドリの認定ファシリティ・メーカーと独占販売契約も締結している。また、センサの感応膜をカラム材料にかえたガスクロマトグラフは持運び容易なハンディガスクロマトグラフとして製品化し、これも納品実績が出ている。感応膜を抗体あるいはアプタマとすれば、抗原-抗体反応を用いたウイルスセンサとなる等、本技術は、今後様々なセンサへの展開が期待できる。よって、JEITA ベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

Early edge 賞

Mantra 株式会社

代表者：石渡 祥之佑（代表取締役）

本社所在地：東京都港区南青山 7-3-6 南青山 HY ビル 7F 荒井倶楽部内

【審査評価】

Mantra 株式会社は、マンガに特化した自動翻訳システム「Mantra Engine」を開発した。マンガの画像データから、セリフの文字を抽出し、多言語に自動翻訳する。日本語、英語、中国語、韓国語など 14 カ国語に対応する。日本のマンガは世界中に愛読者が多く、国際競争力が高いが、日本の出版社が海外展開に対してリソースを十分に割けないのが現状である。このような状況で、本テクノロジーは日本のコンテンツ産業の輸出を大きく後押しする可能性がある。出版社との取り組みも具体化しており、今後事業化への展開が期待され、また、テクノロジーの応用先として極めてユニークといえる。よって、Early edge 賞（特別賞）に相応しい企業と判断した。

以上